

気を出すルーティン 陰陽編

河桜天章

はじめに

- 1, 気を出すルーティン法とは
- 2, 独り・気を出すルーティン法
- 3, 何を検出して何に利用できるのか。
 - 3, 1 始めに自らの健康への良否を判別する。
 - 3, 2 言葉の気ー善悪判別
 - 3, 3 生命エネルギー値
 - 3, 4 陰陽値
- 4, 気を出す・ルーティンの型
- 5, 気を出すルーティンの概略説明
 - 5, 1 ルーティンへの基本練習 (1)
 - 5, 2 ルーティンへの基本練習 (2)
 - 5, 3 ルーティンへの基本練習 (3)
 - 5, 4 ルーティンへの基本練習 (4)
 - 5, 5 ルーティンへの基本練習 (5)
 - 5, 6 ルーティンへの基本練習 完成編 (6)
- 6, ルーティンの実践
 - 6, 1 ルーティンの使用法
 - 6, 2 食べ物の良否を判断
 - 6, 3 キノコ類食品チェック
 - 6, 4 店の雰囲気ルーティン・チェック
 - 6, 5 塩と食塩ー健康良否チェック
 - 6, 6 気を出す・ルーティン検出のコツ
 - 6, 7 変形した・ルーティンになる時
 - 6, 8 野菜のルーティン・チェック
 - 6, 9 凶形の気・ルーティン・チェック
 - 6, 10 神社の気・ルーティン・チェック
 - 6, 11 人間性の判断ールーティン・チェック
 - 6, 12 書による人間性判断

7, 陰陽値数字化 (デジタル化)

- 7, 1 陰陽値検出表
- 7, 2 検出棒ルーティン・チェック用
- 7, 3 気・転移棒の作り方ルーティン・チェック用
- 7, 4 気祓い筆の作り方ルーティン・チェック用
- 7, 5 陰陽値検出方法 (1)

- 7, 6 陰陽値検出方法 (2)
- 7, 7 陰陽値検出方法 (3)
- 7, 8 陰陽値検出方法 (4)
- 7, 9 5分間ルーティン静座

8, 陰陽値デジタル化実践

- 8, 1 野菜の陰陽値検出ルーティン・チェック
- 8, 2 野菜の陰陽値検出
ニラの根とヒガンバナの根
しめじとマイタケー ツキヨタケ (毒)
- 8, 3 さつまいも、ゴボウの陰陽値検出
- 8, 4 人物の陰陽値検出ルーティン・チェック
- 8, 5 書字の陰陽値検出ルーティン・チェック
- 8, 6 浮世絵の陰陽値検出ルーティン・チェック
- 8, 7 ルーティンチェックの修練

9, 陰陽ルーティンチェック総論

気を出すルーティン 食物、健康、人間性チェック

陰陽編

はじめに

テーマは気を出すルーティン法です、目的は食べ物、物質、身体から出ている気値を検出することです。

現在は世界的に汚染が広まり衛生観念を重要視する時代になっています。

表紙の写真は両手、両指を絡ませて検出する図を示しています。現在行われている形態に二人で行うオーリングが一般的に使用されています。

それらは医師、代替医療従事者が行っていますが一般的にはなじみのない手法であります。これからは衛生的な面を専門部所だけに任せていては危険な時代に入っています。食品、健康チェックは自らの身を守り生活を安全にすることが重要な時代になってきました。

従い本書で照会する手法は専門家が使用されている二人で行うオーリング法を手、指の力を使用しないで、すべて独りで行う気を出すルーティン法を説明してあらゆる汚染検出を見極める手法を説明したいと思います。

1, 気を出すルーティン法とは

従来のオーリング法は手指の力による手法でありますがこの書で説くルーティンは意識の力を排除した気（無意識）を活用した手法になります。

オーリングは二人で行うものでしたが気ルーティンはひとりでいい、今までは習得に長い期間が必要で医師、代替治療者が行うことが方向づけられた感がありましたがこの手法では一般人が行えるように気軽に使用できてどんな対象物においてもこのチェックが利用可能で簡単に体得できるようになっています。

多くの方々が利用している色々な応用、活用して全く思いもつかない分野で使用してもらえるようになれば大きな成果が期待できると思います。

習得に1回10分ほど練習して10日～30日程で簡単に習熟できると思います。

この習得の壁は常識であります、そんなことはありえないという思いが邪魔して技術習得が遅くなる人は知識人であります。 見えない気の検出ですから常識にとらわれるとそれが壁となってしまいます。食品の安全、人間性、健康度、絵画、仏像などのチェックを実践していきます。

見た目では判断できないものを潜在意識を活用してチェックしていくのですから今までの常識を取り払うことこそ体得の早道であります。

この秘密は、潜在意識には顕在意識の100万倍の気づきを持っていることです。

その利用がこの気を出す・ルーティン法であります。

◎手、身体から気を出せるようになる。

この検出を行うことで健康回復の気が出せるようになり潜在エネルギー値が上昇します。

2, 独り・気を出すルーティン法

食物、物質、健康、人間性チェック

特長

2, 1 いつでも、何処でも検出することができる。

一般のオーリングでは協力者が必要だが独り・気を出すルーティンでは自らの両手、両指で行うことが出来るために何時でも、何処でも検出が可能になります。

2, 2 腕、指の力を抜いた気によるために精度を増すことが出来る。

力を抜いて、気を出して検出します。気を出す(その方法は本文に譲る)

力は顕在意識であります、気は潜在意識により行いますので精度が増します。

さらに独りで行いますので気兼ねなく検出精度も一段と良くなります。

2, 3 熟達するのに3年はかかっていたのを30日余りで上達します。

2, 4 独りで行うことで自己責任で行え、日々練習を行えることで自由度が増します。

2, 5 自ら独りで行うことで自助努力により結果が出て即自信が生まれる。

3, 何を検出して何に利用できるのか

3, 1 始めに自らの健康に良いか、悪いかの選別

食べ物、飲み物の健康への良否を判別する。

外国からの食品が増えた現代では自らの健康を害する食べ物を選別することは外見からは判断できないものがあります。潜在意識の感性を活用して良否を決める場合に今後必ず必要になってきます。

はじめは疑心なことも何回も行うことで自信から確信に変わっていきます。

3, 2 言葉の気—善悪判別

はじめは常識、見える物の良否を検査、確認していきます。その後は見えないもの、音声、言葉の善悪の良否判別します。

3, 3 生命(潜在)エネルギー値

気を出すルーティンにおいて検出する項目は生命エネルギー値と陰陽値があります。

この二要素について説明します。

まず生命エネルギー値について簡単に照会します。

この数値を検出して気づいた点を記します。

政治家、芸能人、一般勤め人、スポーツ選手、歌手、あらゆる職業の人達を1万人以上の検出結果として生命エネルギー値が1億1000万オング以上の人は秀でた仕事を行ない活躍しています。

この数値は生まれたばかりの幼児は1億オングを持って誕生し、成長するにつれて減少して、0オングに近づき亡くなっていきます。

ところが目標を持って日々努力精進することで1億オング以上になりその業界で知られるようになるのは1億1000万オングの数値が境界線となっています。

例えばノーベル賞の授賞者のような優秀な方は1億8000万オング近辺の数値を持っている人が大部分でありました。

画家のピカソは1億1000万オング程で名を残しています。

その職業によって秀でる数値は違っています。芸能人で何十年も安定した仕事をしている人は1億2000万オング以上の数値となります。

この生命(潜在)エネルギー値とはどのような数値なのかを説いておきましょう。

心理学者によると

顕在意識は1秒間に15個の気づきがあり、

潜在意識は1秒間に1500万個の気づきがあるとされています。

(専門家の単位は個でなく、ビットという単位を使用)

潜在意識は顕在(表面)意識の百万倍の働きをしているのです。

この気づきは五官(聴く、見る、触れる、味覚、嗅覚)から得られるもので
顕在(表面)意識には関知できないものが大部分であります。

その潜在意識の感性(五官)、気配りの量、大きさを数値に表現されたものが
生命エネルギー値であります。

これらの数値は表面意識の観察によっては関知できないものです、その検出は
周囲の雰囲気を感じるのであり、その気を求めるためには気を持って感知力
を受信することが必要になってきます。

五官を持って感知することになります、その感知のために気を出すルーティン
を行います。その方法は手、指の力を抜いて身体から気を出し受信するのです。

3, 4 陰陽値

今までこのチェックを重要視することはなかったし、チェックすることに着目する
方はおりませんでした。

呼吸は吐くこと、吸うことで成り立っています、

人間は息をしなければ3分~5分で死を迎えてしまいます。

吐くことをしなければ、吸うことはできないことが原則であります。

食べることを1週間止めても死ぬことはありません。

呼吸は吐くこと、吸うことに異常をきたすと不健康に向かっていきます。

気においても吐く(陰)、吸う(陽)ことを非常に重要な数値となります。

陰が100%、陽が100%であれば正常値であります。

陰が80%、陽100%となると

周囲に悪い気があったとすると100%吸って（陽）80%（陰）だけ吐くことを意味します。悪い気が20%体内に残ってしまいます。

気の循環が1分間に6回行われているとしたならば悪い気が充満してしまいます。

気に携わっている人にとって陰陽の平衡（陰100%、陽100%）は大事な数値になります。一瞬の内に健康な人が邪気に当たると不健康になるのはこれが起因であります。

この数値は気に携わる方だけでなくあらゆる職業の人に関係しています。

陰80%、陽100%の政治家は周囲に悪い影響を与えていきます。

気に携わる方は気の平衡が保てない人は邪気を吸って不健康になり短命となります。

優秀な医者 of 短命はこれが原因であります。

陰とは潜在意識です、陰が80%とは潜在意識を80%しか使用していないことを表しています。潜在意識1秒間1500万ビット(気づき)の働きを80%しか活用していない、顕在意識の働きは表面の見える部分には気づきがあっても隠れた、遠くの見えない所をおろそかにしては優秀な管理はできません。

詳細はいろいろな職業人の実践検出で明らかにしていきます。

4, 気を出す・ルーティンの型

いよいよ形から説明しよう。

右手の手印—親指と人差し指、両指先を接触する、輪の型をつくる。

左手の手印—親指と小指、両指先を接触する、輪をつくる。



全体内容を概略を説明すると

形はこの両手の型ですが実際に行うときは指輪どうしを交差させるようにします。

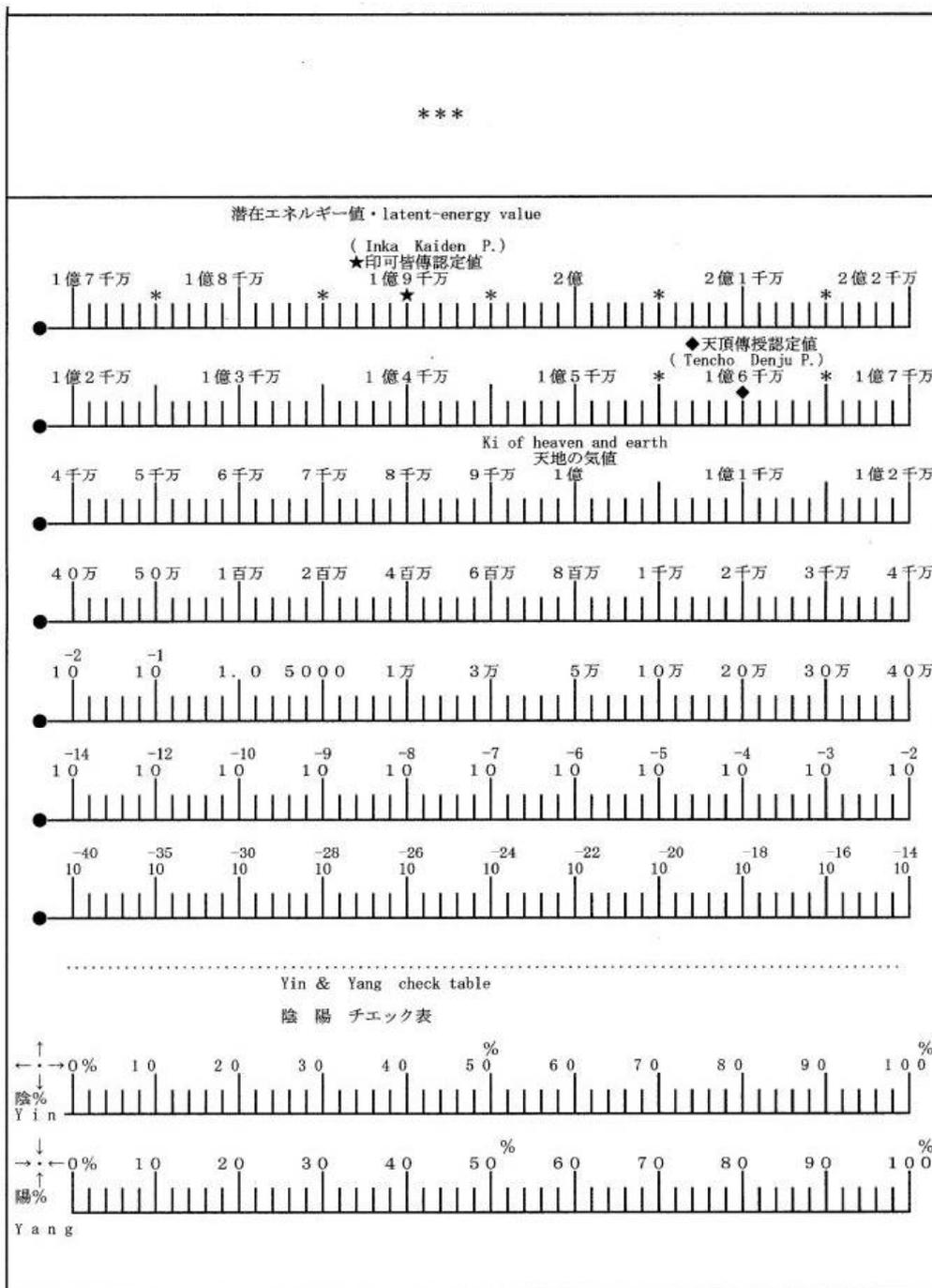
そして意識は両手、両指の力を抜いて両指から気を出すようにする。

気をだす方法は次に示す3つの方法がある

- 1, 指先へと息を吐き出すイメージをする。
- 2, 指先から一方向に線が繋がっていると思う。
- 3, 意識を丹田に置くこと。

この三つをすべて順番に行って気が出るとどのようになるかを順番に体験して3, の方法を実践するようにします。

気を出す・ルーティンの概略説明



すべての人は生命エネルギー値を生まれた時の数値である1億オングを持っています。しかしそのエネルギーを使用していないために、隠れてしまっています。その隠れ持っているエネルギーを表面に出すためにはその重要性を認める必要があります。

ではその必要であることを認識させるためには、それを周囲の人、物を見て見える化(デジタル化)することが必要です。

そのデジタル化する方法が気を出す・ルーティーンで検出し、数値化し表面に、顕在化して大小を意識に解るようにするのです。

隠れたエネルギーを引き出し、検出する受信法は顕在である指力、手の力で確認しようとするれば必ず思い込みに邪魔されてしまいます。

受信法は潜在の働きである気で受け止める方法がベストであります。

そのために先に示した

- 1, 指先へと息を吐き出すイメージをする。
- 2, 指先から一方向に線が繋がっていると思う。
- 3, 意識を丹田に置くこと。

これらの3方法を行い潜在(生命)エネルギー値検出表とを組み合わせることで数値化していく方法をおこないます。

5, 1 ルーティーンへの基本練習 (1)



- 1, 指先へと息を吐き出すイメージする。

片手の5本指を広げてのばします。

指の力を抜きます。

5本指の先から呼吸が出ているとイメージします。

呼吸は口で行いますが息を吐き出すときにイメージで指先から息を吐き出していると思います。その瞬間から5本指は曲がらない指となります。

左手の5本指を息を吐き出している間は反対の右手で曲げてみてください。曲がる感じがしますが跳ね返るバネのように元に戻るようになり曲がらない指になっています。

唇をしっかりと閉じて隙間から少しずつ吐き出します。同時に左手の指先から息が出ていると思うのです。口からは力まずにプウと吐き出します。左手は力を抜いた状態から吐き出すと少し指がまっすぐになります。その指を曲げてみると曲がらない。

息を出さない状態のときは曲げることができる。

息を出すと左手は曲がらない指になります。

注記)

「息を吐き出し指先からイメージで息が出すと曲がらない指となりますこの状態を気が出ていることとなります。」

この単純な練習をめんどうだと思われれます、この練習が気を出し生命エネルギー値を高めてくれます。

この練習は左手と右手には互いに反対の司令が頭脳から出ています。

左手は曲がらない、右手は曲げる力を出します。

左手（潜在）と右手（顕在）との競い合いです。

5, 2 ルーティンへの基本練習（2）



前の回の練習がうまくできたでしょうか。

この練習、鍛錬は基本であり、ルーティーンへの基本練習であり実践のルーティーンには余り役立つことではありません。

しかしこの経過を体験しないと何年行っても熟練の域には到達できません。この基本練習 10 日間はどうしても潜在意識に教え込む必要があります。

息を指から出す時に中指だけに集中して出すようにします。

そうすればすべての指から気が出ることになります。

息を出す時に指の力が入っている時は曲がってしまいます。

指に力を入れて息を通してても気は出ないのです。

頭脳から左手への指令は 一曲がらない

頭脳から右手への指令 一左指を曲げる

この二つの指令を行うことは顕在と潜在との闘いであります。

この顕在、潜在との闘いであり調和であり一緒にひとつのことを成し遂げる手法であります。

左指を曲がらないことの練習後は右手が曲がらない事に挑戦してみてください。

5, 3 ルーティン基本（中級編）（3）



両手の指から気を出してみよう。

腕の肘を 90 度ぐらい曲げて前方へ両手を出します。

腕、手指の力を抜きます。

(手指の前方に赤い丸印を張っておきます)

両指先から息を吐き出すイメージをして赤印に向かって気を放出します。

この段階で指は曲がらない手指になっています。

次に呼吸を吐き出すことはやめて、指先と赤印がつながっているとおもいます。

イメージは指先から糸が出て赤線につながっていると描きます。

その方法で両手の指は曲がらないようになっています。

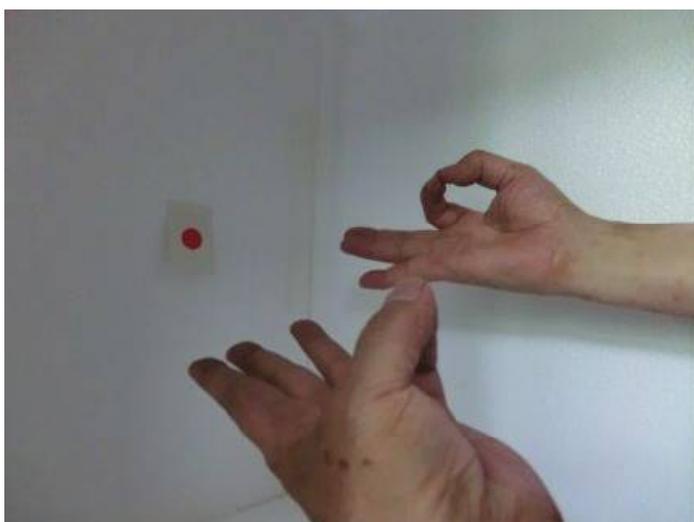
呼吸は省略して、線のイメージだけで曲がらない手指になっています。

注記)

基本練習は5分ぐらいで充分です。

力(顕在)で行っていることをすべて潜在に切り替えることが目的です。

5, 4 ルーティンへの基本(中級編) (4)



ルーティンー右手ー親指と人差し指とを接触する。

左手ー親指と小指とを接触する。

この形で指先から気を出して見ましょう。

右手は中指、薬指、小指は前方に伸びています。

真っ直ぐに伸びている3本、中指、薬指、小指の3本の指先から赤い点に線で繋がっているとイメージしましょう。

左手は人差し指、中指、薬指は前方に伸びています。

その3本指から赤い点に線が伸びているとイメージしましょう。

この時に3本指からのイメージを中指だけに集中しましょう。
すなわち右手も中指から赤い点に繋げるイメージ
左手も中指から赤い点に繋げるイメージ
そのようにすればすべての指先から気が出ることになります。

5, 5 ルーティンの基本 (5)

今までは右手、左手は別々でしたがルーティンの完成形であります。
右手の輪と左の輪を交差させるルーティンを作ります。
イメージは両手の中指から気を出すようにします。

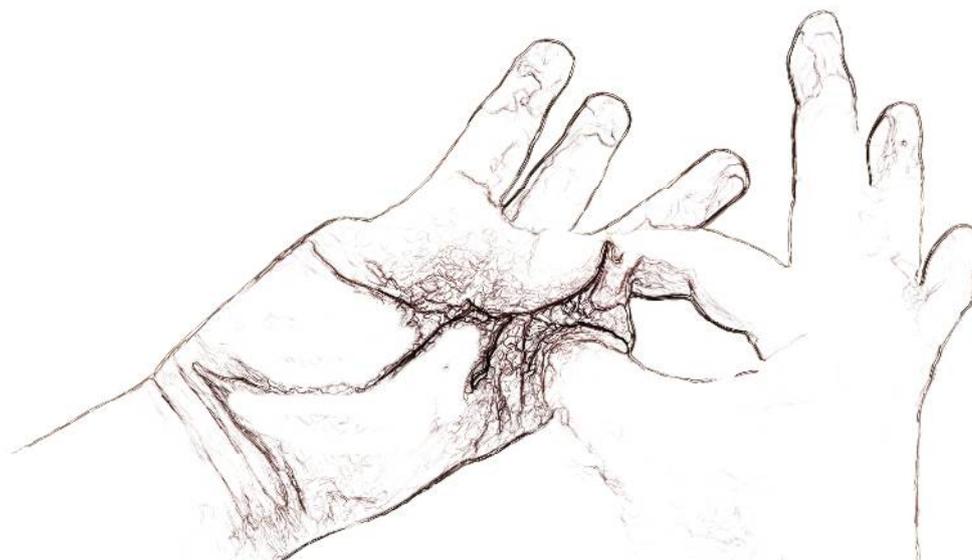
この型をもって色々な検出を行っていきます。

YES - であれば左手の輪は閉まります。

NO - であれば左手の輪は開きます。

この検出は眼に見えない、隠れた検出に威力を発揮します。
同じような検出法として力(顕在)を使用する方法がありますが
気(潜在)によりますと意識による誤りをなくしてくれます。
増しては全く見えないものを検出するには、過去の経験、記憶は
何の役目をしません。その意識を何処に置くかでこのルーティン
の型が完成いたします。

5, 6 ルーティンの完成 (6)



形はかわりませんが完成として

一点に意識を置くことによってこの形が完成いたします。

このルーティンで今までは気が出るイメージを描いていましたが完成として意識を臍下丹田に置き鎮めます。

臍下丹田とは具体的な場所を説明しますと臍（へそ）下に人差し指、中指、薬指を揃えて置きます。3本指下一点が>>臍下丹田であります。

その一点に意識を置き鎮めることで両手指から気を出すことができます。

A,両手ルーティンを組みます、両手指の力を抜きます。

その後臍下丹田に意識を置き鎮めます。

そうすると両手の指から気が出ています。

右手の輪を右に軽く動かしてみましよう。

左手の輪は閉じたままであれば気が出ている証です。

B,次に意識をおでこ(額)に置いて右手の輪を動かして見ましよう。

輪が開いて外れてしまいます。

この違いを体感することが重要であります。

A,B を繰り返し体感しましよう。

注記) 臍下丹田に意識を置くとは、丹田に力を込めることではありません。

唯単にその臍下一点に意識を向けるだけで良いのです。